

4. 認知症について

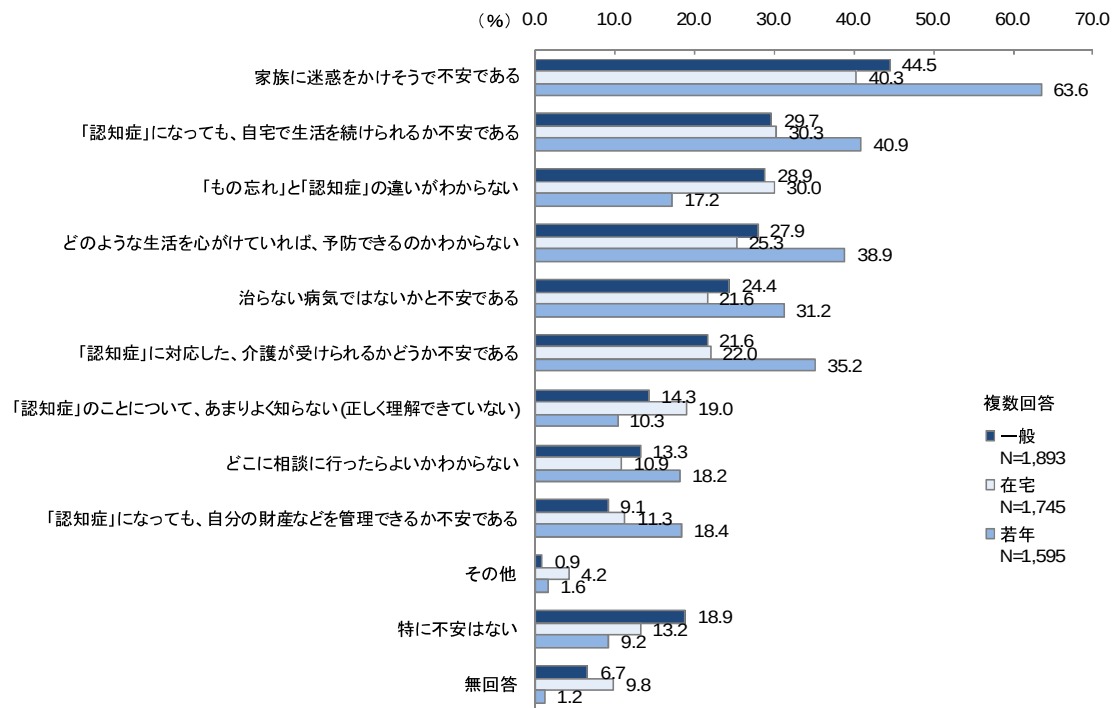
（１） 「認知症」と聞いて、不安に感じること

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

認知症について不安に感じることは、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれにおいても、「家族に迷惑をかけそうで不安である」が最も多く、一般高齢者で44.5%、在宅高齢者で40.3%、若年者で63.6%となっている。

2番目に多い項目も、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれにおいても『認知症』になっても、自宅で生活が続けられるか不安である」で、一般高齢者で29.7%、在宅高齢者で30.3%、若年者で40.9%となっている。

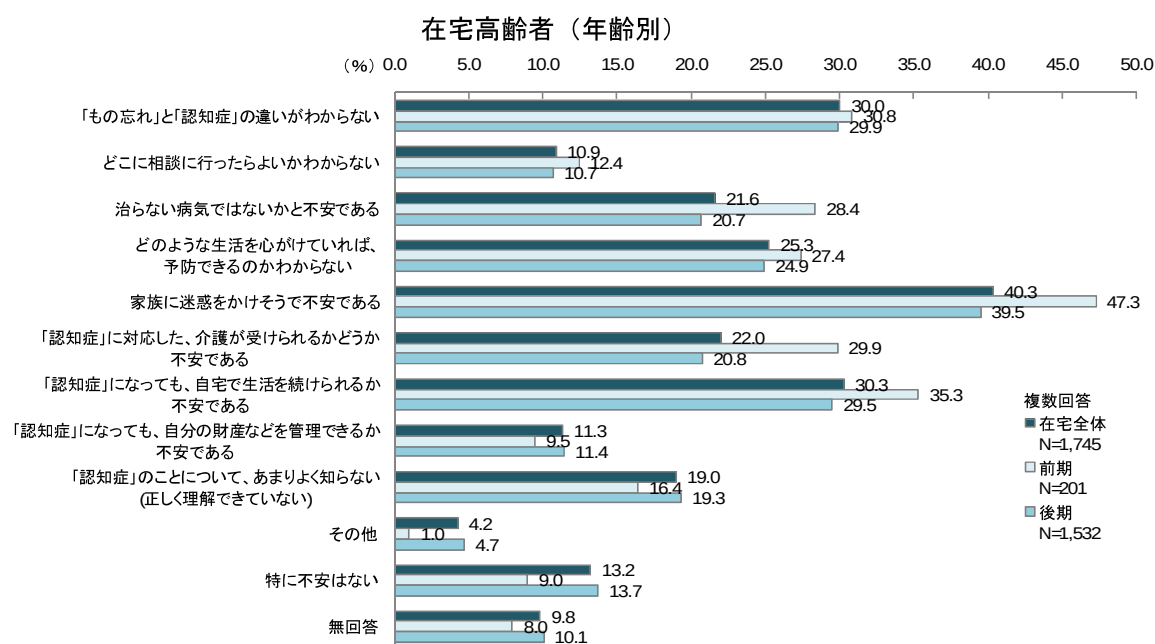
3番目に多い項目は、一般高齢者と在宅高齢者では、『もの忘れ』と『認知症』の違いがわからない」で、一般高齢者で28.9%、在宅高齢者で30.0%に対し、若年者では「どのような生活を心がけていけば、予防できるのかわからない」が38.9%であった。



【調査対象属性別特徴】

在宅高齢者の年齢別にみると、「治らない病気ではないかと不安である」、「家族に迷惑をかけそうで不安である」、「『認知症』に対応した、介護が受けられるかどうか不安である」は、前期高齢者の割合が高い。要介護度別にみると、要介護度が低い層ほど割合が高い傾向にある。身体状況別にみると、あまり大きな差はないが、「『もの忘れ』と『認知症』の違いがわからない」は、身体状況の良好な層で回答の割合が高い傾向にある。

若年者の男女別にみると、「家族に迷惑をかけそうで不安である」、「『認知症』に対応した、介護が受けられるかどうか不安である」は女性の回答率が高い。



在宅高齢者（要介護度別）

実数 構成比(%)

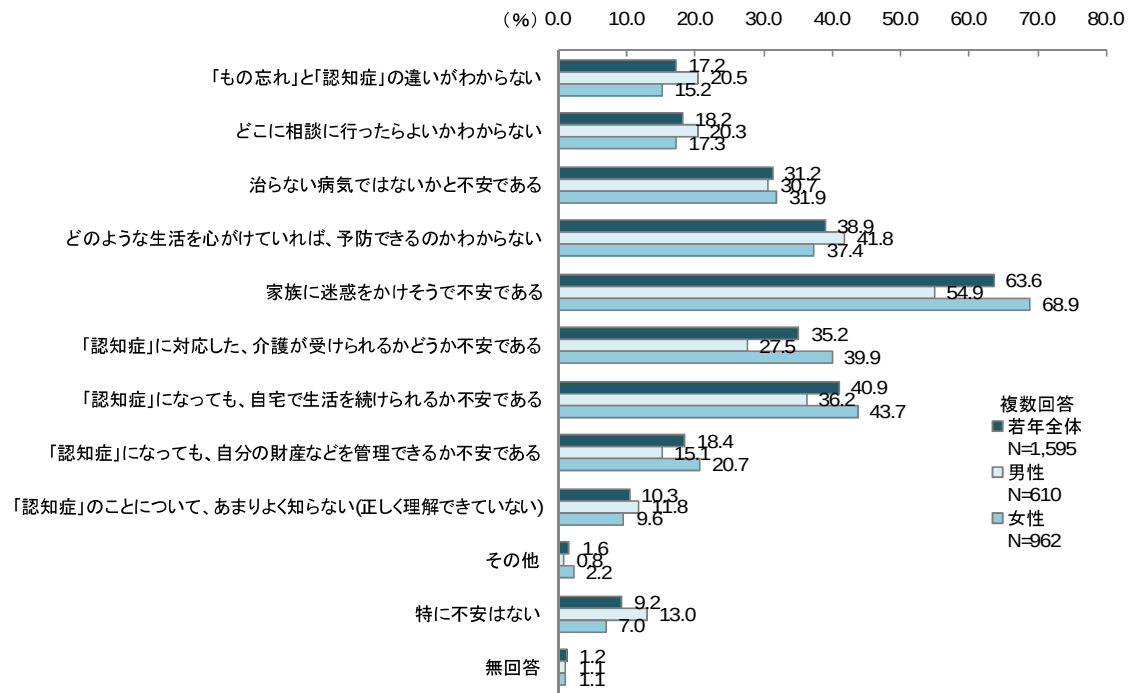
		計	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	不 明	計
1	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない	524	32.6	32.3	30.9	30.1	27.9	21.6	25.0	33.3	30.0
2	どこに相談に行ったらよいかわからない	190	12.0	11.9	10.0	12.3	10.1	9.0	6.9	8.3	10.9
3	治らない病気ではないかと不安である	377	22.5	21.5	21.8	24.5	17.3	17.1	20.8	25.0	21.6
4	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない	441	27.3	28.5	25.7	24.3	23.6	20.7	19.4	33.3	25.3
5	家族に迷惑をかけそうで不安である	704	44.6	41.9	41.6	42.7	31.3	37.8	30.6	33.3	40.3
6	「認知症」に対応した、介護が受けられるかどうか不安である	384	27.3	20.0	23.4	21.1	17.3	18.0	20.8	50.0	22.0
7	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか不安である	529	35.6	36.5	30.5	29.3	21.6	24.3	23.6	50.0	30.3
8	「認知症」になっても、自分の財産などを管理できるか不安である	198	14.6	13.5	11.4	10.7	6.7	8.1	9.7	33.3	11.3
9	「認知症」のことについて、あまりよく知らない(正しく理解できていない)	331	17.2	22.3	20.5	21.1	15.4	11.7	15.3	16.7	19.0
10	その他	74	1.9	0.8	2.5	5.1	10.1	9.0	8.3	0.0	4.2
11	特に不安はない	231	16.9	12.7	10.7	11.5	15.9	15.3	13.9	25.0	13.2
	無回答	171	8.6	7.7	8.9	7.7	15.9	10.8	19.4	8.3	9.8
	計	1,745	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

在宅高齢者（身体状況別）

実数 構成比(%)

		計	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明	計
1	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない	524	44.4	32.0	34.7	29.2	29.5	18.7	20.5	20.0	27.3	33.3	30.0
2	どこに相談に行ったらよいかわからない	190	11.1	12.9	11.2	10.1	10.6	13.3	11.0	10.0	4.5	8.3	10.9
3	治らない病気ではないかと不安である	377	16.7	21.8	22.7	21.3	21.8	21.3	18.9	10.0	22.7	25.0	21.6
4	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない	441	16.7	31.3	26.3	24.0	25.2	18.7	22.8	20.0	31.8	33.3	25.3
5	家族に迷惑をかけそうで不安である	704	22.2	36.1	39.8	44.0	42.3	34.7	37.8	30.0	27.3	33.3	40.3
6	「認知症」に対応した、介護が受けられるかどうか不安である	384	11.1	25.9	22.1	22.4	21.3	21.3	17.3	10.0	27.3	50.0	22.0
7	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか不安である	529	11.1	38.1	32.2	30.3	29.0	26.7	22.0	20.0	31.8	50.0	30.3
8	「認知症」になっても、自分の財産などを管理できるか不安である	198	16.7	19.0	12.2	9.7	8.4	13.3	9.4	10.0	18.2	33.3	11.3
9	「認知症」のことについて、あまりよく知らない(正しく理解できていない)	331	22.2	25.2	20.4	18.0	17.8	18.7	13.4	30.0	13.6	16.7	19.0
10	その他	74	27.8	1.4	3.4	3.3	5.2	1.3	10.2	0.0	4.5	0.0	4.2
11	特に不安はない	231	11.1	14.3	12.4	11.2	13.4	21.3	16.5	0.0	18.2	25.0	13.2
	無回答	171	16.7	7.5	10.3	9.7	7.4	9.3	12.6	40.0	27.3	8.3	9.8
	計	1,745	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

若年者（男女別）



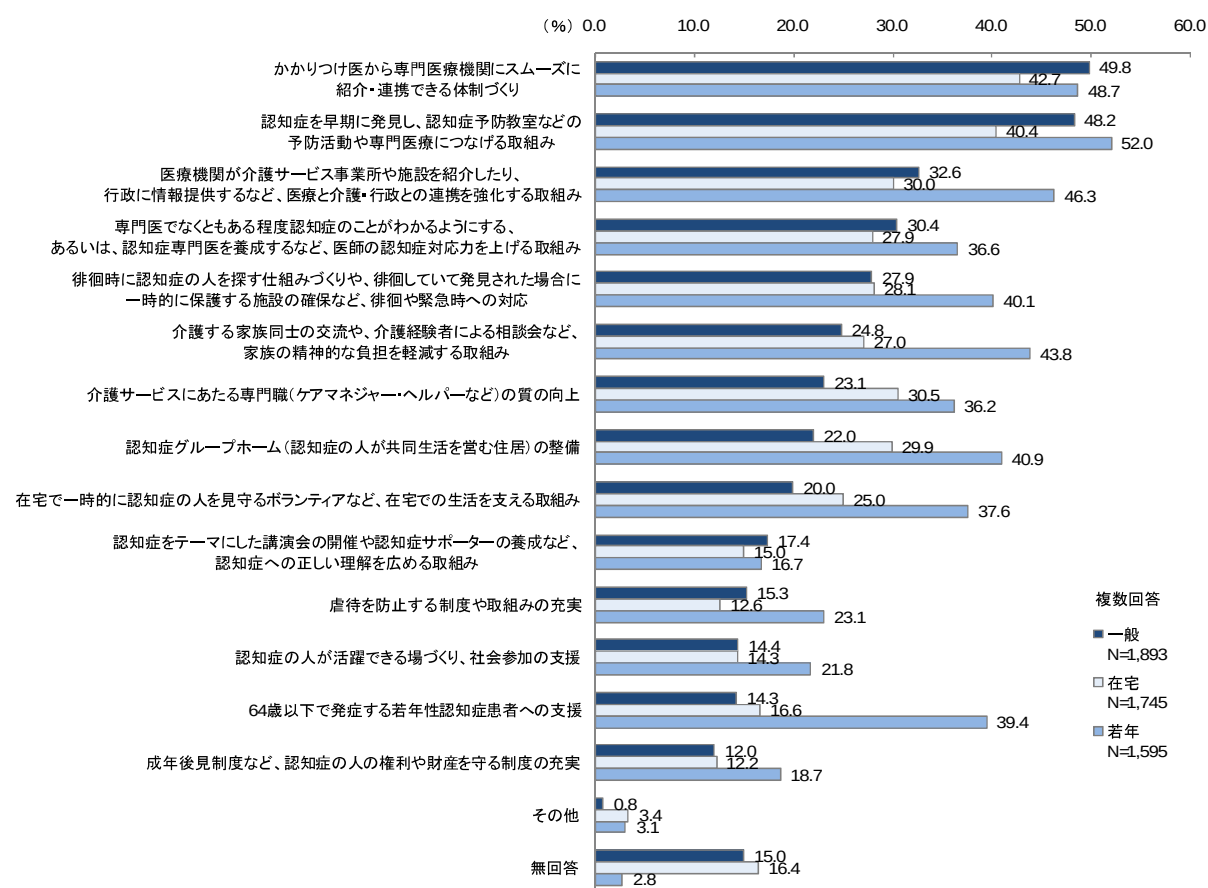
（２）認知症への取組みで北九州市が力を入れるべきこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

認知症への取組みとして一般高齢者が北九州市に期待することは、一般高齢者では「かかりつけ医から専門医療機関にスムーズに紹介・連絡できる体制づくり」49.8%、「認知症を早期に発見し、認知症予防教室など予防活動や専門医療につなげる取組み」48.2%の２つが上位である。

在宅高齢者では、「かかりつけ医から専門医療機関にスムーズに紹介・連絡できる体制づくり」42.7%、「認知症を早期に発見し、認知症予防教室など予防活動や専門医療につなげる取組み」40.4%の２つが上位であった。

若年者では、「認知症を早期に発見し、認知症予防教室などの予防活動や専門医療につなげる取組み」が52.0%、「かかりつけ医から専門医療機関にスムーズに紹介・連絡できる体制づくり」が48.7%、医療機関が介護サービス事業所や施設を紹介したり、行政に情報提供するなど、医療と介護・行政との連携を強化する取組み」が46.3%となっている。

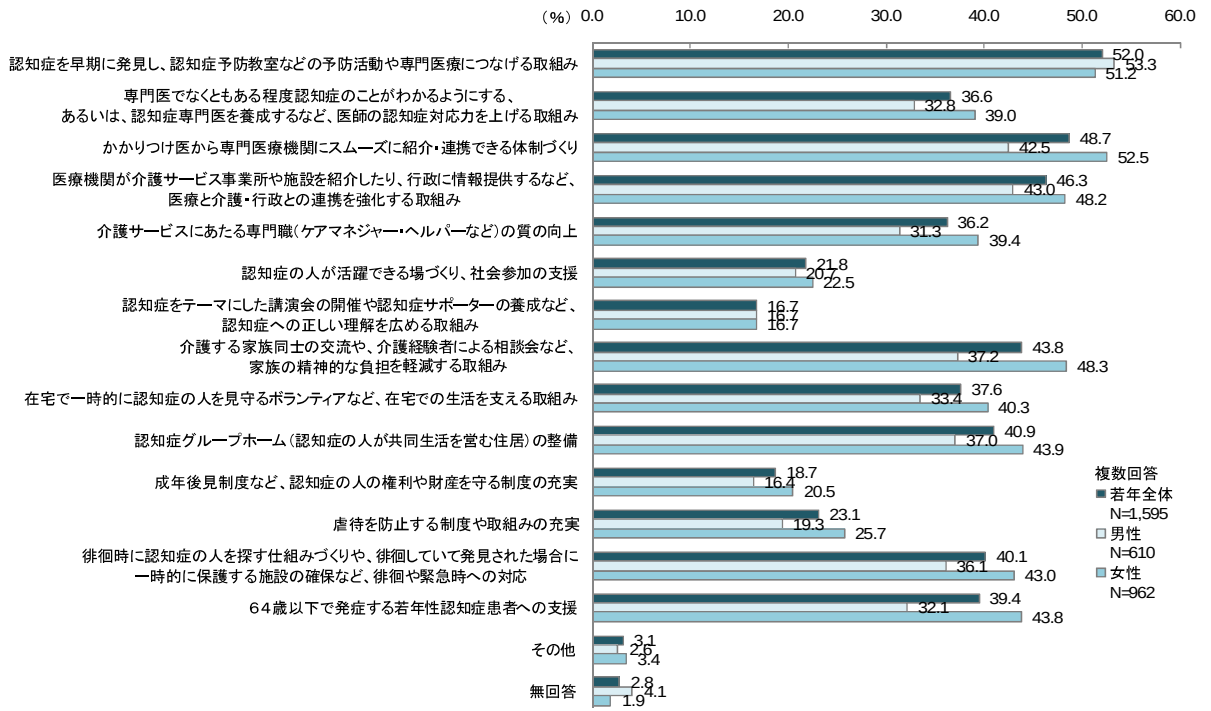


【調査対象属性別特徴】

若年者の年齢別にみると、あまり大きな違いは見られないが、「64歳以下で発症する若年性認知症患者への支援」は、若い層で回答割合が高い。男女別にみると、「かかりつけ医から専門医療機関にスムーズに紹介・連携できる体制づくり」、「介護する家族同士の交流や、介護経験者による相談会など、家族の精神的負担を軽減する取組み」、「64歳以下で発症する若年性認知症患者への支援」において女性の回答割合が高い。

		若年者（年齢別）							
		実数	構成比(%)						
		計	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	無回答	計
1	認知症を早期に発見し、認知症予防教室などの予防活動や専門医療につなげる取組み	829	51.0	51.3	47.7	53.8	54.2	50.0	52.0
2	専門医でなくともある程度認知症のことがわかるようにする、あるいは、認知症専門医を養成するなど、医師の認知症対応力を上げる取組み	583	35.1	39.9	32.3	37.1	38.0	33.3	36.6
3	かかりつけ医から専門医療機関にスムーズに紹介・連携できる体制づくり	776	48.6	42.9	49.8	49.3	50.2	54.2	48.7
4	医療機関が介護サービス事業所や施設を紹介したり、行政に情報提供するなど、医療と介護・行政との連携を強化する取組み	738	43.4	42.0	44.4	47.6	49.8	54.2	46.3
5	介護サービスにあたる専門職（ケアマネジャー・ヘルパーなど）の質の向上	577	39.8	38.2	35.8	38.5	31.8	29.2	36.2
6	認知症の人が活躍できる場づくり、社会参加の支援	347	18.7	25.2	21.9	23.8	20.0	20.8	21.8
7	認知症をテーマにした講演会の開催や認知症サポーターの養成など、認知症への正しい理解を広める取組み	267	16.7	16.4	14.0	18.7	17.1	16.7	16.7
8	介護する家族同士の交流や、介護経験者による相談会など、家族の精神的負担を軽減する取組み	699	48.6	50.0	45.5	41.4	39.6	29.2	43.8
9	在宅で一時的に認知症の人を見守るボランティアなど、在宅での生活を支える取組み	599	40.6	39.1	36.2	38.5	35.6	29.2	37.6
10	認知症グループホーム（認知症の人が共同生活を営む住居）の整備	653	45.4	40.3	47.3	39.9	36.7	20.8	40.9
11	成年後見制度など、認知症の人の権利や財産を守る制度の充実	298	21.5	21.4	19.0	18.1	16.7	4.2	18.7
12	虐待を防止する制度や取組みの充実	368	23.9	25.2	22.9	24.1	21.3	12.5	23.1
13	徘徊時に認知症の人を探す仕組みづくりや、徘徊していて発見された場合に一時的に保護する施設の確保など、徘徊や緊急時への対応	640	41.0	41.6	43.0	40.2	37.6	29.2	40.1
14	64歳以下で発症する若年性認知症患者への支援	629	49.0	44.5	39.8	40.2	30.0	50.0	39.4
15	その他	49	4.4	4.6	3.2	3.1	1.6	0.0	3.1
	無回答	44	2.4	3.4	1.4	2.8	3.3	4.2	2.8
	計	1,595	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

若年者（男女別）



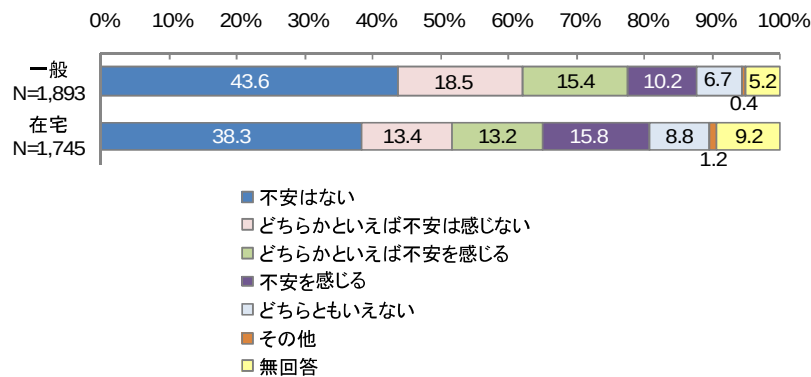
5. 虐待・権利擁護について

(1) 高齢者の権利侵害に対する不安

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

一般高齢者、在宅高齢者ともに、詐欺などの「不安はない」と回答した人が最も多く、一般高齢者で 43.6%、在宅高齢者で 38.3%であった。「どちらかといえば不安は感じない」と合わせると、一般高齢者で 62.1%、在宅高齢者で 51.7%となっている。

これに対して、「どちらかといえば不安を感じる」、「不安を感じる」を合わせた割合は、一般高齢者で 25.6%、在宅高齢者で 29.0%となっている。



(2) 財産管理への対応

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

認知症などにより財産管理などに不安が生じた場合の対応について尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者ともに、「子どもや他の親族に財産管理をゆだねる」が最も多く、一般高齢者で 51.5%、在宅高齢者で 56.8%であった。「自分の財産なのであくまでも自分で管理をする」は、一般高齢者で 23.5%、在宅高齢者で 14.6%であった。

前回調査と比べると、一般高齢者では、「子どもや他の親族に財産管理をゆだねる」は 9.0 ポイント減少したのに対し、「自分の財産なのであくまでも自分で管理をする」は 13.7 ポイント増加している。

